

大和川下流部大規模氾濫に関する減災対策協議会
「第7回 協議会 及び 第3回大和川下流部流域治水部会」

議事概要

1. 会議方法：WEB 会議

2. 日 時：令和3年3月4日（木）14時～15時

3. 参加者：別添の名簿のとおり

4. 議事次第：

1. 開会・挨拶

2. 議事

・大和川流域治水プロジェクト（案）について

3. 報告事項

・大和川下流部大規模氾濫に関する減災に係る取組について

平成27年度から令和2年度までの実施状況について（報告）

4. その他

・今後の予定

5. 閉会

5. 議事及び報告事項の内容等

1) 大和川流域治水プロジェクト（案）について

資料1および参考資料1～3に基づき、大和川河川事務所（以下「事務局」）より、大和川流域治水プロジェクト（案）の概要が報告された。各構成機関からの主な意見は以下のとおり。

●大和川河川事務所：

近年我々が行っている治水対策を遥かに上回るような規模の豪雨災害が頻発しており、「流域治水」をキーワードとして、河川管理者だけではなく流域の様々な関係者が一丸となって立ち向かっていきたい。

●大阪府：

大阪府からは大阪府危機管理室・事業管理室・河川室の他に、下水道・都市計画・農

林部局も参画し、全員体制で進めている。防災というのはあらゆる人が主役になって取り組むべきことであり、まさに流域治水が掲げる「あらゆる関係者」の参加が必要。我々、河川管理者だけでなく、関係部局の皆さんと一緒に進めていきたい。

●大阪市：

大和川流域治水プロジェクトとして、現段階では住民などの避難対策、ソフト対策がメインと考えている。今回の流域治水プロジェクトによる効果（浸水深の低減、浸水範囲の縮小等）の把握も視野に入れていただきたい。

●堺市：

本市では、河川の改修整備事業、ポンプ場の新設によるハード対策を進めている。有事の際には、広域な浸水等の恐れもあるため、ハード対策、ソフト対策ともに進めていく必要がある。大阪市からもあったように、流域治水プロジェクトによる効果を見える化していただきたい。

●八尾市：

ソフト対策としては、災害基本対策基本法に基づく地区防災計画の策定を全市的に進めているが、事務局にも積極的な参画、アドバイスをいただき、共に作っていきたい。相当な降雨の場合は、寝屋川、大和川も含めて被害が出ると想定されるため、今後も雨水流出抑制施設を整備、民間企業の開発への指導等のハード対策も進めていきたい。

●柏原市：

柏原市では公共下水道雨水ポンプ場の老朽化対策として、令和2年2月に柏原市下水道ストックマネジメント計画を策定し、雨水ポンプ場の改築、増設を進めている。ポンプ場整備については、事務局とも協力して進めていきたい。

●藤井寺市：

昭和57年8月の出水で多くの被害発生を受けて、ハード対策として複数ポンプ場を供用開始している。今後も公共下水道事業による雨水幹線を整備していく際には、事務局の協力をお願いしたい。加えて、平成24年に事務局のモデル事業として、まるごとまちごとハザードマップの看板を作成頂いている。今後も、事務局・大阪府と協力しながら、設置に向けて準備を進めていきたい。

●東大阪市：

本市は地形上、内水浸水被害が多く発生しており、昭和57年には1万戸を超える被害が発生した。これまで進めている豪雨対策や平成28年から行っている新岸田道幹線整

備事業によって、平成 30 年 7 月豪雨の際には効果を発揮していることを確認している。
先に整備進んでいる 1 期工事と合わせ、 2 期工事も進めていく予定である。

2) 大和川下流部大規模氾濫に関する減災に係る取組について

平成 27 年度から令和 2 年度までの実施状況について（報告）

事務局から、資料 2 に基づき、平成 27 年から令和 2 年度までの大和川上流部大規模氾濫減災対策協議会の取組状況について報告した。今後も引き続き、水系一丸となって取組を推進、充実に向けて取組んでいくことを報告した。構成機関からの主な意見は以下のとおり。

●大阪府：

大阪府は、おおさかタイムライン防災プロジェクトとして、令和 3 年度を目標にタイムラインの検討を進めている。直轄河川の大和川における多機関連携型タイムラインも、是非進めて頂きたい。要配慮者利用施設の避難計画作成については先進事例、成功事例も紹介しながら、進めていただきたい。

3) 今後の予定

事務局から、資料 3 に基づき、来年度の幹事会、協議会では、取組方針の改定（案）、R2 年度取組状況のフォローアップに加えて、流域治水部会の組織の在り方について調整予定であることを報告した。構成機関からの主な意見は以下のとおり。

●大阪府：

大阪府としても、流域治水プロジェクトに非常に期待しており、今後もこの協議会等で、継続して議論を発展させていきたい。